

コロナ禍でごみはどのくらい増えたのか？

東京都清瀬市からの報告

清瀬ごみともだち会員 坂巻真砂子

緊急事態宣言が解かれ、市内の消費者グループが集まれるようになって、「コロナでごみが増えたと言われるけれど、清瀬の状況はどうなっているのか？」「マスクは何ごみで出したらいいの？」などの話題になりました。さっそく「清瀬ごみともだち」の『直接調べに行く』方式で、8月6日、清瀬市ごみ減量推進課*を訪ねました。

*清瀬市は多摩地域の北の端に位置する10万km²、人口74,636人の小さな市です。ごみ減量推進課は、市の北の端、所沢市との境にあります。

* 使用済みマスクは素材に関わらず可燃ごみ

まず、マスクの捨て方についてお聞きしました。使用済みマスクは収集する方の感染予防のため焼却処分するので、素材にかかわらず可燃ごみで出すこと。ティッシュももちろん可燃ごみです。

その際、透明または半透明のビニール袋に入れ、しっかり縛って出してくださいとのことでした。意外に知らない方が多いので、広くお知らせせねばと思いました。感染症が長引くと、市民が毎日使い捨てマスクを使うことでごみが増えます。燃やすごみを減らすために、洗って何度でも使える布マスクを使いたいですね。

* ステイホームで約1割ごみが増えた

コロナの影響でごみがどのくらい増えたのかお聞きしたところ、3、4、5月の具体的なデータを示されました。それをこちらで整理したものが右上の表です。

全体的に増えていますが、粗大ごみの増え方が顕著です。「ステイホーム」で家の中の片付けをする人が多かったことによるものでしょう。通常は申し込んで1~2週間後に収集される場所、3週間後になったそうです。

	2020年3~5月	前年より増えた量	対前年比
可燃ごみ	2,591,650kg	170,810kg	107.1%
不燃ごみ	479,490kg	75,880kg	118.8%
粗大ごみ	28,680kg	8,340kg	141.0%
容器包装プラ	270,890kg	16,570kg	106.5%
計	3,370,710kg	271,600kg	108.7%

(清瀬市ごみ減量推進課提供資料より)

粗大ごみの保管場所も兼ねている市のごみ減量推進課への直接搬入も増えました。まだ使える家具や家電製品、布団などが出されたそうです。シルバー人材センターやリサイクルショップが稼働していなかったこともあるようです。不燃ごみの増え方も多く、これも片付けの影響のようです。

容器包装プラスチックは、3ヶ月で16,570kg増加。少なく見えますが、容量にすると膨大で、ごみ収集車約26台分になります。テイクアウトが増えた影響と思われるます。

清瀬の主な産業が農業、病院、大学で、事業系ごみはもとも少ないため、「減った」ということもありません。不法投棄も特に目立たなかったということです。



ごみの指定袋を倍に値上げした清瀬市の混乱

2000年にごみの指定袋制(有料化)を導入し、ごみの減量に成果を上げてきた清瀬市ですが、この数年は減量スピードが停滞。そして、今年6月1日から指定袋の値上げ(燃やせるごみと燃やせないごみを10L(10枚)100円を200円に。容器包装プラはすえ置き)の予定でした。ところが、トラブル続出中です。簡単に経過を報告します。

- 1) 「コロナ禍対応」として、市議会の要請により値上げを実質4ヶ月延期。5月中に、新指定袋の4ヶ月分相当量を全戸に無料配布。旧指定袋は9月末まで使用できる。店頭販売は新指定袋のみ。世帯人数に関わらず、全世帯に20L袋を配布したため、単身世帯などは扱いに困る。
- 2) 10月1日より、実質値上げのスタート。旧指定袋を使う際には差額券を貼る必要があるが、差額券の品切れ続出で入手できないため、貼らずに出さざるをえず、収集されない。場所によっては貼ってなくても収集されるなど、混乱。
- 3) これまでは有料化しても集積所回収を続けていた清瀬市だが、10月1日より戸別収集開始と重なり、問題がより複雑に。ごみ減量推進課の電話はつながりづらい状態が続く。
- 4) 新指定袋は製造者もデザインも変更され、ユニバーサルデザインも変更。わかりずらく、その広報もなし。

市の準備不足、広報不足が露呈した現在の混乱ぶりですが、値上げも戸別収集も、根本の目的に「ごみ減量」が据えられていないためと、私たちは考えています。